

(別記)

令和2年度田原市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

田原市は、昭和43年の豊川用水の通水に始まり、集出荷施設の整備等各種補助事業による条件整備によって、電照菊、洋花に代表される施設園芸やキャベツ、ブロッコリーなどの露地野菜、畜産等の盛んな全国一の農業地帯である。

一方、稲作等の水田に関する土地利用型農業については、他産業への労働力の流出による兼業農家の増加や高齢化の進展、また施設園芸や畜産の専門化とあいまって、水稻作付農家の大半は自家飯米農家であるため担い手による作業受託や経営受託が増加している。

農業生産基盤の整備や、担い手への土地利用集積による経営規模拡大を推進しており、水田を受託する担い手が育成されつつある。その担い手の経営安定のため、水稻の収量・品質向上や価格安定を図る必要がある。

また、水田状態で水稻以外に露地野菜・飼料作物等を生産する農家が存在している。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

本市の主力品種はあきたこまち、コシヒカリなどである。

オペレーター等の大規模農家へ農地の利用集積を進め、経営力強化を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米を転換作物の中心的作物に位置づける。

飼料用米の生産拡大にあたっては、愛知県経済農業協同組合連合会等を通じた取組として出荷契約先を確保するが、地域の畜産農家からの要望があれば、直接相対取引にも応じていく。

当面は、主食用品種を用いた取組を主体とし、周辺環境を含めたカメムシ等による被害を抑制するための適切な病虫害防除に加え、肥効調節型肥料を用いた省力的かつ高収量栽培を推進し、飼料用米を低コストかつ安定的に生産できる体制を目指す。

ただし、自ら乾燥調製を実施して出荷できる農家については、多収品種による飼料用米の取組を認める。

エ WCS用稲

本地域には、畜産農家が多く存在するので、需要に応じた生産を維持する。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦については、二毛作に加え新たに基幹作に取り組み、水田の利用拡大を推進する。
飼料作物については、地域に畜産農家が多く存在する中、飼料自給率の向上のため、
作付面積の拡大を推進する。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

ア キャベツ・ブロッコリー

本市は、冬春キャベツ・ブロッコリーの大産地であり、販路が確保されている。

水田を活用した栽培は、湿害等のリスクを伴うものの、米の需給調整に資するものであるため、作付面積の拡大を推進する。

イ その他野菜

水田を活用した野菜づくりは米の需給調整に資するため、作付面積の拡大を推進する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	873	870	870
飼料用米	52.0	76.0	76.0
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0
WCS用稲	5.6	5.6	5.6
加工用米	0	0	0
備蓄米	0	0	0
麦	3.9	5.0	5.0
大豆	0	0	0
飼料作物	2.6	3.0	3.0
そば	0	0	0
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	5.8	7.0	7.0
キャベツ・ ブロッコリー	5.5	6.5	6.5
その他野菜	0.3	0.5	0.5

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	野菜（キャベツ、 ブロッコリー） （基幹作）	高収益作物（キャベツ、 ブロッコリー） に対する助成	取組面積	（令和元年度） 5.5ha	（令和2年度） 6.5ha
2	野菜（とうもろこし・ さといも） （基幹作）	高収益作物（とうもろこし・ さといも） に対する助成	取組面積	（令和元年度） 0.3ha	（令和2年度） 0.5ha
3	飼料用米 （多収品種以外） （基幹作）	飼料用米の生産性・ 品質向上の取組に 対する助成	取組面積	（令和元年度） 29.7ha	（令和2年度） 51.0ha
4	飼料用米 （耕畜連携） （基幹作）	稲わら利用の取組 （耕畜連携）に 対する助成	取組面積	（令和元年度） 51.2ha	（令和2年度） 76.0ha
5	麦、飼料作物 （二毛作） （基幹作）	二毛作に対する助成	取組面積 （麦） （飼料作物） （計）	（令和元年度） 3.9ha 1.6ha 5.5ha	（令和2年度） 5.0ha 2.0ha 7.0ha
6	飼料用米 （基幹作）	飼料用米の複数年契 約に対する助成	取組面積	（令和元年度） —	（令和2年度） 30.0ha
7	キャベツ、ブロッ コリー、とうもろ こし、さといも （基幹作）	高収益作物等拡大加 算	作付拡大面積	（令和元年度） —	（令和2年度） 0.1ha
8	麦、飼料用米、飼 料作物、キャベ ツ、ブロッコリ ー、とうもろこ し、及びさといも （基幹作）	転換作物等拡大加算	作付拡大面積	（令和元年度） —	（令和2年度） 0.36ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり